

執筆者一覧（氏名は掲載順）

特別寄稿

吉田 寛

立命館大学大学院先端総合学術研究科教授

東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了、博士（文学）

主要業績

- ・『絶対音楽の美学と分裂する〈ドイツ〉』青弓社、2015年

論文

奥坊 由起子

立命館大学大学院先端総合学術研究科表象領域一貫制博士課程在学中

主要業績

- ・「エドワード・エルガーをめぐる言説
——1920年から1934年の『ミュージカル・タイムズ』を中心に——」、
『大阪音楽大学研究紀要』第53巻、2015年
- ・「レイフ・ヴォーン・ウィリアムズの国民音楽観
——フォークソングによるイングランド国民性の表出——」、
立命館大学大学院先端総合学術研究科『Core Ethics』第12巻、2016年

尾崎 一成

京都市立芸術大学大学院博士後期課程音楽専攻音楽学領域在学中

主要業績

- ・「オペラ《セロ弾きのゴーシュ》におけるプレヒト的なものと林光の独自性」、
『美学芸術学』第32号、2017年
- ・「林光の宮沢賢治オペラにおけるプレヒト演劇的なもの」
(口頭発表：日本音楽学会第68回全国大会)、2017年

外山 悠

同志社大学大学院文学研究科美学芸術学専攻博士後期課程在学中

同志社大学人文科学研究科嘱託研究員（社外）

主要業績

- ・「斎藤百合子『日常性の美学』における「道徳的美的判断」に関する一考察
——フランシス・ハチスン『美と徳の観念の起原』を比較の対象として——」、
『美学芸術学』第32号、2017年
- ・「斎藤百合子による「日常性の美学」と「をかし」の美学」、岡林洋・清瀬みさを（編著）
『カルチャー・ミックスⅡ』、晃洋書房、2018年
- ・「斎藤百合子による「日常美学」と「をかし」の美学」／「斎藤百合子『日常美学』の
概要紹介」、『エコ美学&科学国際研究センター 2017年度 研究成果報告集』、2018年

船木 理悠

同志社大学研究開発推進機構及び文部特別任用助手／人文科研究所兼任研究員、

京都造形芸術大学非常勤講師

同志社大学院文研究科美芸術学専攻博士後期課程修了、博士（芸術学）

主要業績

- ・「G・ブルレの音楽美学史的位置づけ・ブルレの音楽美学史的位置づけ
—— E・ハンスリックとの関係を通じて——」、『美学』第66巻2号、2015年

- ・「エルネスト・アンセルメの音楽美学における解釈と身体
——現象学的身体論としてのアンセルメの音楽美学——」、『音楽学』第 63 巻 1 号、
2017 年
- ・「音響のテンポと脈拍のテンポ——ジゼル・ブルレとフーゴー・リーマン——」、
岡林洋・清瀬みさを（編著）『カルチャー・ミックスⅡ』晃洋書房、2018 年